



仮設住宅での草取りボランティアの様子。

人びとのつながりが 新しい力を生む

～コープあいち 地域交流ツアー開催

コープあいちでは、6月2～4日の3日間、岩手県の大船渡市と陸前高田市を巡る地域交流ツアーを実施し、コープあいちの組合員31人が参加しました。愛知県の地域ネットワークづくり活動を背景にした継続的な取り組みが、現地の皆さんの強いつながりを生み出しています。

継続した取り組みで 一人ひとりを支えたい

コープあいちが、地域交流ツアーを実施したのは、今回で5回目。ツアーでは、今夏、岩手で行なわれる七夕祭りを一緒につくりあげていく打ち合わせを継続的に行なうなど、「これから」のことを地域の皆さんと一緒に考え合ってきました。「行って帰って終わる交流ではなく、人々がつながることで、何か新しい力が生まれる、そんな交流を目指しています」とコープあいち東日本被災地支援担当の岩本隆憲さん。



七夕祭りの打ち合わせ会場。玄関先には、ツアー当日、愛知県よりコープあいちのトラックでお届けしたタオルが。

現地では、大規模な仮設住宅に物資支援やイベントが集中する一方、小規模仮設住宅にはそれが届きにくい現状があります。

また、みなし仮設住宅に入られた方には、情報すら届きにくく、多くの在宅生活者の方も家族を失うなど、はかり知れないダメージを抱えたままです。支援や情報の格差が、かつて仲間意識のあった住民たちに亀裂を生じさせかねません。

被災地で出会う人の多くは、表面上は笑顔でも、拭い去れない傷や不安を抱えています。そんな状況だからこそ、コープあいちでは、一人ひとりに寄り添う交流を大切にしています。深く相手を理解し、自分のことのように考え

行動することで、人は友として受け入れ、初めて心を開いてくれると感じたといいます。

つながることで、見えてくるものがある

コープあいち理事長補佐参与の向井忍さんは次のように語ります。

「昨年4月に陸前高田の街を目にしたとき、生協は何ができるかとか、個人で何ができるかとか、そういう次元の問題ではないのだと、言葉を失いました。何をすればよいのかすら分からない中で、まず人と人がつながることで、何かしらの解決の糸口が少しずつ見えてくる。これまでの活動は、まさにそんな繰り返しの中でつくってきたのだと思います」

人とつながることを大切にする。このような活動ができているのは、震災以前からコープあいち参加し、愛知県全体で、安心して暮らせるネットワークづくりをすすめてきた活動の背景があるからだといいます。

これらの活動を通して、被災地への取り組みは、支援ではなく「協同」なのだといふ気がされたそうです。

今後も、コープあいちは、継続したつながりを被災地と持ち続けていきます。



今回のツアー参加者。

お知らせ：ツアーの動画は、コープあいちのサイトで公開されています。「コープあいち 復興ブログ」で検索。
http://www.coop-aichi.jp/fukko/all_post
 復興支援ブログ↑
<http://www.youtube.com/user/coopaichiFUKKO/videos>
 ブログの動画ボックス↑